



- 所在地 南河内郡河南町大字東山299
- 敷地面積 14,318平方メートル
- 建築面積 3,408平方メートル
- 延床面積 5,925平方メートル
- 構造階数 鉄骨鉄筋コンクリート造  
(一部鉄筋コンクリート造)  
地上2階建地下1階
- 工事期間 平成3年12月から平成5年11月
- 設 計 株式会社安藤忠雄建築事務所
- 施 工 鴻池・三菱JV
- 請負金額 2,766,580千円

近つ飛鳥と名付けられた、この地域には、日本でも有数の古墳群が存在しています。ここには四基の天皇陵を筆頭に二百数十基の古墳群が存在し、日本の歴史の発生期における中心的な場所であったといえます。

この施設は、古墳文化の公開、展示、研究を目的とした博物館です。ここでは新しい試みとして、周囲に点在する古墳群との一体感を創出するために、建物そのものを段状に隆起させました。また周辺には梅林や池があり、散策路が巡っています。

このような環境の中で、この建物は野外活動の拠点としても活用され、地域の中核施設としても機能しています。特に屋根は段状の広場となっており、演劇祭、音楽祭、各種パフォーマンス、レクチャー等多様な使い方が考えられます。

出土品は古墳の中に納められている時と同様な姿で展示され、人々は古墳内部に入っているのと同様の感覚を体験でき、その思いは太古へと誘われます。

氷蓄熱空調方式を採用しています。